

平成30年度 第2回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨 平成30年2月20日(水)開催

(1) まち・ひと・しごと創生関連事業の効果検証について

1 雇用の創出・就労促進について

(1-1 創業支援)

- ・創業支援においては商工会の役割が非常に大きい。事業者と商工会が連携し創業支援だけでなく経営支援も同時に行う必要がある。
- ・商工会としても創業支援に強い思いがあり金融機関と連携して進めたい。
- ・創業支援について金融機関は資金繰りや事業計画の面から事業者をサポートしていきたい。
- ・今後は幅広く高齢者や女性などの創業意欲掘り起こしたい。
- ・田原市で起業したい若者も多くいるので、商工会としては積極的に支援したい。
- ・空き店舗を活用した創業については、現状耐震に関する責任区分が不明確なので明確にしてほしい。

(1-2 企業立地の推進・三河港の振興)

- ・バイオマス発電所が開業すれば雇用が創出され三河港、田原港も更に振興すると考える。

(1-3 農業後継者・新規就農者の確保・育成)

- ・田原市は農業が主力の街なので農業活性化に向けて近隣大学農学部の誘致や、農業企業と連携した施策検討なども良いと思う。

(1-4 農畜水産業強化)

- ・渥美半島たはらブランドの販路拡大ということで、首都圏に田原市産の農作物や加工品を売り込んでいる。その中で、首都圏の大手デパートやネット通販のバイヤーに実際に田原市に来てもらいアドバイスをもらっている。

(1-6 道の駅高質化)

- ・道の駅の高質化については補助金を活用してリニューアルした影響もあって売り上げ、利用者共に増加傾向である。しかし、6次産業化のために投資した施設について活発な使用状況ではないので、運用のルールを策定したうえでの一般開放や受託加工など多様な活用の仕組みを検討したい。

2 定住・移住促進について

(2-2 サーファー等の移住促進)

- ・田原市の高校から大学進学や就職のため他の市町村へ転出した方に対して田原市の暮らしやすさをアピールし、戻ってきてもらえる様な仕組みを検討してほしい。

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現について

(3-3子育て支援)

- ・親子交流施設すくっとが4月からオープンする。大きい子から小さい子まで、様々な世代の子供が遊べる施設なので多くの方に利用していただきたい。

4 地域の魅力・住み良さの向上について

(4-1市街地の活性化)

- ・商工会としては直近では10月の消費税増税に伴う軽減税率適応への指導が課題である。現状、小売店はキャッシュレス決済に対応できていないので指導、支援を行いたい。
- ・キャッシュレス決済について率先して取り組もうとする事業者は少ないので、必要性を認識していただけるよう啓発に力を入れたい。

(4-4戦略的なシティセールス)

- ・豊橋市の魚市場や農業市場に行くと、競り市を行っており大人数が集まっている。せっかく田原市内に良い場所があるので海産物や農産物を大々的にアピールし、田原市だけでなく近隣から人を呼び込めると良い。そして協力してくれる農家にメリットが生まれる仕組みを作り、それを目玉にアピールできると良い。

その他

- ・田原市には外国人が1,500人程度住んでおり、そのうちの1,000人が研修生である。現在外国人に対して日本語教室の他に相談業務をおこなっている。相談業務に対する認知度が低いのでもっとアピールし、外国人が気軽に相談できることで彼らにとって住みやすい場所となることを望む。
- ・豊橋市では今後将来の豊橋を担う子供とそれを育てる世代に光を当てた予算を組むと言っていた。田原市においても将来を見据えた政策を進めてほしい。
- ・田原市定住・移住ウェルカムガイド「たはらで暮らそう」については、サーフィンと子育てに続く第三弾ということで、移住サーファーが語ったたはら暮らしの魅力についてまとめたものだ。平成30年9月のワールドサーフィンゲームスの際、田原市のブースへ来訪された方へ配布した。